

県内初「スーパーエコスクール」に 生駒・鹿ノ台中、市が計画発表

■足踏み発電など生徒の案も

生駒市は22日、市立鹿ノ台中学校（鹿ノ台南）で、国の補助金を活用して太陽光発電設備などを導入し、県内初の「スーパーエコスクール」にする計画を発表した。人が床を踏む振動で発電する「足踏み発電」を校舎の昇降口に設置するなど、生徒の案も反映している。平成26年度中の完成を目指す。

自然エネルギーの導入促進などを目的に、文部科学省は24年度、スーパーエコスクールを実施する場合の補助金制度を創設した。学校に太陽光発電を導入する場合、費用の半額を補助するなどとしている。

全国の自治体では、生駒市のほか、京都市と福島県矢吹町が補助対象に選ばれた。

生駒市では24年度、鹿ノ台中を対象校に選定。生徒をはじめ、地域住民や有識者も加わり、具体的な計画作成を進めてきた。

計画は、主に22項目で構成。校舎の屋上に太陽光発電設備を設置するほか、教室間の仕切りを改装して保温性の高い断熱化を進める。消費電力の少ないLED（発光ダイオード）や省エネ型エアコンの導入も進める。

生徒の発案で、足踏み発電のほか、小型風力発電の「かぜまるくん」を校舎入り口近くに設置する案も採用された。

25年度に具体的な設計を進め、予算規模を算定する。

計画作成に参加した3年、谷口亮太君（14）は「どこまで実際に実現できるのかを考えながら計画案を作りました」と話している。

市は完成後、鹿ノ台中で節電効果などを調べる実証実験を予定している。